

角幡唯介最新刊！

『極夜行前』

文藝春秋刊

2月15日発売
定価1750円+税

2018年の超話題作『極夜行』の “エピソード1”といえる、 本番前に要した3年間の準備の旅。

2018年、ノンフィクション界の話題をさらった『極夜行』。太陽の昇らない冬の北極を一匹の犬とともに旅をし、4か月ぶりに太陽を見るという誰も真似できない大冒険を描いた作品でした。新作『極夜行前』はその名の通り、『極夜行』を完遂させるために要したプロセスを描いたものです。角幡さんは言います。何事にもプロセスが大事なんだと。本番の旅を迎えるためには3年の月日がかかりました。その間、毎年北極に行き、自分が計画している極夜の旅が実現可能なものなのか、様々な面から試行しました。いよいよ本番と位置付けた年の春～夏には、事前に自分と犬の食料や燃料をカヌーで遠くのいくつかの小屋に運びました。その過程ではセイウチ（海象）に襲われて危機一髪の局面もありました。この3年に何があったのかもぜひ皆さんに知ってもらいたい。そしてこの準備があったから『極夜行』が書けたのだということも。



『極夜行』から読むか、 『極夜行前』から読むか。

『極夜行』は著者自らが「最高傑作」と言う代表作となりました。年末には本屋大賞ノンフィクション本大賞のほかに、大佛次郎賞も受賞しました。時間を忘れるほどのめり込んでしまう作品ですが、『極夜行前』もまた校閲者が「途中で読むのをやめられなかった」と言うほどの作品です。『極夜行前』の最後の1行を読んだあなたは、『極夜行』を(もう一度)読まずにはいられないはずです。どちらから読んでも、最終的には2冊読むことになるでしょう。そして、角幡さんの相棒、ウヤミリックのその後が気になるかと思えます。今や村で一番大きな犬に育ち、角幡さんの犬ゾリの一員として元気に北極を駆け回っているそうです。



角幡さんは今もまた北極に！

ノンフィクション作家、探検家。1976年、北海道芦別市生まれ。早稲田大学政治経済学部卒。03年に朝日新聞社に入社、08年に退職後、二度のツアンポー探検を描いた『空白の五マイル』が話題に。18年『極夜行』で第1回Yahoo! ニュース 本屋大賞ノンフィクション本大賞を受賞。



問い合わせ先

文藝春秋宣伝プロモーション局
Tel 03-3288-6142
pr@bunshun.co.jp

* 角幡さんのご帰国は2019年6月上旬の予定です。